



February 2012

Newsletter

第10号

工学系技術部広報誌

平成24年2月1日発行

2011 ぐんだいで遊ぼう！「ものづくり体験・おもしろ探検」

2011 ぐんだいで遊ぼう！「ものづくり体験・おもしろ探検」（ぐんだいで遊ぼう実行委員会主催）が8月18日（木）、地域の小学生102名を迎え、総合研究棟を主会場に開催された。

小学生の理科離れを危惧し、科学に興味を持ってもらおうと企画されたもので、今年で7年目になる。

内容は例年通り、①身近の化学 ②たまねぎで染めよう！ ③ホバークラフトをつくろう ④ペットボトルロケットを飛ばそう ⑤パソコンの分解と組み立て体験 ⑥簡単！手作りモーターに挑戦 の6テーマを設定。

桐生市、みどり市の小学校4～6年生を対象に、約5000枚近いパンフレットを配布し募集を行った。応募者は例年募集人員を上回り、抽選をして当選者を決めているため、テーマによっては狭き門になっている。

イベントの当日、当初子ども達はおとなしくしていたが、内容が進むにつれて元気が出てきて、目を輝かせてくるのがわかり、こういうチャンスになるべく多くつくる必要があるのではないかと思った。ただ、せっかく技術職員が工学部という場所を利用して行うイベントなので独自性のある企画ができれば、より良いのではないかと思う。

地域貢献委員会のメンバーを中心とする「ぐんだいで遊ぼう実行委員会」は、企画から募集、会場設定、

また資金の調達、教育委員会との交渉など、過去7年間の経験と実績を積み重ね、年々スムーズに準備を進めることができるようになってきた。と同時に、技術職員全員の協力なくしては成立しない重要なイベントとして、しっかりと根付いたと言える。

このイベントを実行するにあたり、財団法人群馬大学科学技術振興会、パンフレットの配布にご協力をいただいた桐生市とみどり市の両教育委員会、日本機械学会群馬ブロックおよび工学クラブから後援をいただき、子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）からの助成金を受け、無事終了できたことを感謝いたします。（井田）



工学教育賞「文部科学大臣賞」を受賞 故中澤 剛氏

研究推進支援センターマシンショップ所属の中澤剛氏等の業績「eラーニングと実体験を融合した安全教育システムの開発と実践」は、平成22年度日本工学教育協会における工学教育賞候補として、群馬大学工学部より推薦され、特に優れた業績と認められ最高位の「文部科学大臣賞」を受賞いたしました。これは、危険を伴う機械工作作業での安全を確保するための工学教育におけるeラーニング適用に関する実践取組みを紹介したものです。学生は安全作業に対する意識をさらに高めることができます。中澤氏はそのテーマにおいて毎年科学研究費補助金を取得し、安全教育のエキスパートとしてのご活躍を期待されておりました。

（工学部ニュース；2011年9月12日受賞記事 記載）

しかし、大変残念なことに中澤氏は、平成23年9月の（社）日本工学教育協会第59回年次大会における受賞式を目前の8月9日急逝されました。中澤氏は将来を嘱望されていた人だけに、多くの方が氏の早すぎる

逝去を悼んでおります。技術職員一同、心よりご冥福をお祈りいたします。また、中澤氏の遺児育英資金の募金につきましては、大変多くの方よりご賛同していただきましたことをこの場を借りて深く御礼申し上げます。（飯塚）



「Excel2010 全体研修」実施報告

群馬大学では「マイクロソフト包括ライセンス契約」により、全学的にOffice 製品の最新版を使用することができる。なかでも、Excel は日常的に使用するソフトのひとつであり、業務遂行の上で必要不可欠なものとなっている。この Excel に習熟することで職員のスキルを底上げすることを目的として、技術部主催による全体研修を9月13日（火）、15日（木）の午後、総合情報メディアセンター桐生分室2F研修室に於いて実施した。本研修には、事務系職員も含めて総勢42名の受講参加があった。

研修内容は、テキストを「よくわかる Excel 2010」基礎編とし、技術的業務に必要な部分を重点的に、実際にExcelの表作成を行う事で習熟を図った。講師は、コンピューターや情報通信分野に詳しい技術職員の中から、社会環境デザイン工学科の近藤良夫技術職員にお願いした。

2日間にわたる研修の成果として、自己流で覚えてしまった職員からは、基礎からの講習で新たな機能を

知り、今後の業務に生かしたいとの意見も聞かれ、充実した研修であった。

最後に、テキストの借用と会場提供の便をお図り頂いた総合情報メディアセンター本部の方々、桐生分室の皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。（野口）



第5回AEDによる救命講習会

『AED（自動体外式除細動器）を用いた救命講習会』（桐生事業場 安全衛生委員会主催）が平成23年11月2日（水）13:30～16:30、桐生市消防本部から4名の講師を派遣していただき体育館柔道場で開催された。

今回で5回目になる本講習会の受講者は、学生13名、教職員25名総勢38名と盛況であった。

キャンパス内のAED装置が今年度3台増設され7台になった。せっかく設置された装置を吐嗟の時に操作できなくては、設置趣旨に反する。また学内外のイベント等で来学者も多く、不測の事態にも対応するためには平素からの訓練が必須となる。

今夏の酷暑で、熱中症より急性心筋梗塞で若年者が急逝するといった事象もあったことから、今回より受講対象を学生にまで広げ募集した。

はじめに、評議員の篠塚先生より救命講習は貴重な体験であるとの御挨拶をいただいてから実習にはいった。昨秋より救命での心肺蘇生法が人口呼吸より、胸骨圧迫（心臓マッサージ）が優先され、効果的な蘇生を行うには、早急に十分な強さと十分な回数の胸骨圧迫を絶え間なく行うことが重要であると、指導を受けた。

受講者は皆真剣に講習に聴き入り、実習は本番さながらの様相で行われた。

本講習会の受講者には毎回好評をいただいているが、未受講の方、受講後数年経過している方、救命法は年々変化しております。次回の受講を是非お奨めします。

本講習会を開催するにあたり、ご協力いただいた関係者の皆様、またご支援いただいた群馬大学科学技術振興会には感謝申し上げます。（藤生）

